

2021 年度 大谷大学文藝コンテスト
【親鸞部門（高校生・中学生）】総評

審査委員長 一楽 真

装いを新たに、今年度から始まった大谷大学文藝コンテストの親鸞部門には、関係学校（真宗大谷派学校連合会加盟校）を中心に高校生から 2,854 作品、中学生からは 393 作品の応募があった。たくさんの作品が寄せられたことを、まずもって喜びたい。

今年のテーマは「あなたにとっての「世界」」で、テーマに基づいて 800 字以内でのエッセイを書いてもらった。応募に先立って、30 分の基調講演と 15 分の書き方講座を受講することをお願いした。本来であれば学校に出向いて対面での講義を行うところであるが、昨年来の新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、事前に収録した動画を視聴する形をとった。

テーマ設定の意図は、一口に「世界」と言っても、人によって感じ方、受けとめはそれぞれであり、あなたの世界を聞かせて欲しいというのが第一義であった。そして、書くことを通して、自分が生きている世界について改めて考え、確かめる機会になればという願いからであった。

ニュースや新聞で報じられる世界は、ほとんどが人間の住んでいる国々を指している。世界一周と聞けば、いろんな国を回ることを誰もが思い浮かべるのではなかろうか。ただ、一つの国をとっても様々な面がある。また状況によって、様相が一変する場合もある。さらには、自分の気持ちによっても、楽しく感ずることもあれば、辛くて仕方ない時もある。

仏教は「一切有情」という言葉で、生きとし生けるものの世界を表わしている。人間だけが世界を構成しているわけではない。鳥や動物、虫たちも含めて世界は成り立っている。海や山や、風や太陽、環境のすべてが世界である。

またすでに亡くられた方も世界から消えてしまったわけではない。これまでと違う在り方で、思い出す時に今の生き方に関わってくることもあれば、新たに出会い直すことだってある。言葉を通して、昔の人物に会うこともできる。未来に思いを馳せることもある。その意味で、世界は空間的にも時間的にも無限に広がっていると言える。

寄せられた作品から、どんな世界が見えてくるか、どんな広がりを感じることができる

か。楽しみにわくわくしながら読ませていただいた。身近な日常のことから自分の生きている世界について書かれたもの、出会いを通じて自分の知らない世界が開かれた経験をつづったもの、死の悲しみをくぐって現実に立って生きる気持ちを記したもの。どの作品にも一人ひとりの世界が文章に表されていて、若い息吹に触れることができた。

受賞作は中でも特に、文章表現に優れ、独自の視点で書かれているものが選ばれた。選外となったものにもたくさんの良作があった。また次回に応募できる人は是非とも応募してほしい。そして、受賞の結果にかかわらず、親鸞がどんな世界を見ていたのか、どんな世界を生きようとしていたのかということには、一度思いをめぐらせてほしい。